



「待ってたよ！」

5月27日の弟子屈市街地の桜の様子です。例年になく寒い日が続き、桜の開花も遅れていましたが、ようやくほころんでくれました。花と緑の美しい季節の始まりです。

Public relations magazine

2013.6

No.706

てしかが

主な内容

- あなたの声が聴きたい……………②
- 環境生活課に総合サービス室が新設されました!…⑤
- ファイターズ戦観戦チケットをプレゼント…⑥
- 「弟子屈 2 days えこパスポート」……………⑦
- 第38回児童生徒読書感想文コンクール…⑧
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設…⑩

むかしむか史 (272)

てしかが歴史写真館 146



受け継がれていく川湯ばやし

盛大に行われた『川湯白つつじ祭り』

硫黄山の麓から温泉街に至るつつじヶ原は、高山性の樹木が低地に生えていることで有名です。ことに、白いかれんな花を咲かせるイソツツジは毎年、6月の中旬から下旬に見頃を迎えます。

さて、この硫黄山を背景にかつて、盛大にお祭りが行われていたことをご存じでしょうか。1953(昭和28)年、川湯温泉観光協会(当時)が「夏の本格的な観光シーズンの到来」を全国的にPRするため始めたのが『川湯白つつじ祭り』です。初めのころは、硫黄山の麓で民謡大会を催したに過ぎなかった祭りですが、その後の関係者の努力とPRが功を奏し、回を重ねるごとに祭りは全国的に知られるようになりました。

しかし、祭り当日は例年、マイカー族がどっと繰り出すため、硫黄山一帯の道路は車で埋まり、定期観光バスが麓の駐車場に入れられないという事態が起こりました。これ以上駐車場を拡張することができないこともあり、1978(昭和53)年、惜しまれつつも祭りは姿を消します。

最後となった『第26回川湯白つつじ祭り』は、前夜祭を川湯神社境内の特設舞台上で、本祭りは会場を満開のイソツツジに包まれた硫黄山の麓に移し、各種催しが盛大に行われました。

祭りはその後、観賞会、探勝会と時代の流れとともに姿を変えましたが、当時からある『川湯ばやし』は今もなお、子どもたちに伝承されています。その力強い太鼓の響きの中に、かつての『祭り』がよみがえるようです。

てしかが郷土研究会(蜂谷)



2013.6

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ☎482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

R100 この広報紙には再生紙を使っています